

## SYNAPSE VINCENT®を用いたEOB-MRIによる肝機能評価

### 1. 研究の対象

2013年9月から2016年12月までに国立がん研究センター東病院で肝疾患に対して ICG 検査および EOB-MRI 検査が行われた方々を対象とします。

### 2. 研究の概要

肝特異的造影剤であるEOB（商品名：プリモビスト）を用いたMRI検査は優れた肝臓腫瘍の検出により、肝臓手術前に不可欠な検査となっています。EOBの代謝経路は、一般的な肝機能評価に用いられるインドシアニングリーンと似ていることを利用し、EOB-MRI検査を用いて肝機能評価を行う研究がこれまでに報告されています。一方で、EOB-MRI検査における肝臓信号値の測定は検査による誤差があり、現状では臨床で応用されるに至っていません。本研究では、3D肝臓解析ソフトウェアであるSYNAPSE VINCENT®（富士フィルムメディカル）を用いることでEOB-MRI検査における肝臓信号値を客観的に、再現性をもって測定することができないか、詳しく検討します。

### 3. 研究の意義と目的

近年では、手術手技や周術期管理の進歩に伴い、肝切除術の安全性は向上してきました。しかし、その合併症は15～30%、肝不全は3～8%で発症すると報告されており、さらなる飛躍が求められるところです。大量肝切除後の在院死亡の主な原因は肝不全であり、この合併症を回避するために、様々な術前肝機能評価法が試みられてきました。本研究により、EOB-MRIによる術前肝機能評価の有用性が見出せれば、これまで特殊な採血が必要であった検査（ICG検査）の必要がなくなり、さらには手術後に残る肝臓の機能を予想することが可能になると推測され、今後、肝臓手術を受ける多くの患者さんに役に立つ情報であると考えています。

### 4. 方法

2013年9月から2016年12月までに国立がん研究センター東病院でICG検査およびEOB-MRI検査が行われた患者さんを対象とします。同患者さんの診療録および試料から必要な情報を収集し、検証します。収集したデータは国立がん研究センター東病院肝胆膵外科の下で、期限を定めずに国立がん研究センター内に厳重に保管します。

## 5. 個人情報保護に関する配慮

閲覧する診療録等には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は、研究登録時に発行される登録番号、生年月日、カルテ番号を使って管理するため、患者さんの氏名などの個人情報が院外に出ることはありません。また患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますのでいつでも下記まで申し出てください。

### 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科 工藤雅史（研究事務局）  
後藤田直人（研究責任者）

TEL 04-7133-1111 / FAX 04-7131-4724